

各事業報告

1. ボランティアの人材育成とその担保に関する事業

(1)学内ボランティア団体の育成支援

センターでは個人のボランティア相談のほか、団体の活動相談にも応じている。活動に関するアドバイスや役立つ情報の提供に限らず、必要に応じてファシリテーターとして団体の会議に出向くこともしている。今年度は地域と連携したプロジェクトに取り組む有志団体が3団体立ち上がるなど、学生たちの活動の広がりを感ずる1年となった。

主な相談内容：

- ・組織運営に関すること
- ・メンバー間のコミュニケーションに関すること
- ・新入生のまきこみ方
- ・メンバーのモチベーションアップを図りたい
- ・広報に関すること
- ・団体立ち上げについて など

(2)学生サポートメンバー養成講座(4期)

学生と共につくる、育つセンターを目指し、「ボランティア活動をセンターとともに学生のボランティア活動を盛り上げる」学生コーディネーター養成を目的とした講座を毎年実施している。また、毎回好評となっているスキルアップを図る特別編では、外部講師を招き、一日研修を実施した。当日は各回のアイスブレイクや進行フォローとして、2期生、3期生（2013年度、2014年度受講生）がファシリテーターを務めた。

i)企画概要

①『サポメン活動紹介&学生ボランティアネットワークの可能性と広がり』

学生サポートメンバーには、今後、多くの人と人をつなぐ役割が期待されている。個人や一つの大学、団体ではできないことでも、大学間で連携し、みんなの力を合わせれば、できることは沢山あるはず！・・・ということで、第1回は、他大学の学生コーディネーターやボランティアグループにお越しいただき、活動紹介や互いを活かし合う関係作りを目的としたワークショップを実施した。

日 時：2015年5月30日（土）13：00～17：00

参加者：4期生5名、3期生6名、ゲスト19名

- 内 容：
- ・アイスブレイク（自分を野菜に例えると）
 - ・各団体による活動報告
 - 聖学院大学 学生サポートメンバー
 - 立正大学社会福祉学部ボランティア活動推進センター 学生スタッフ
 - East Volunteer Community (EVC)
 - 埼玉大学児童文化研究会
 - ・“つながる”ワーク

②『改めてボランティアについて考える』

「ボランティア」は、人によって様々なイメージがある。学生スタッフとして、どのようなボランティア観を持つのか。また、どのようにボランティアを紹介していくのか……。互いの価値観

やボランティアに関わってからの変化を共有しながら、「ボランティア」の魅力について考える機会を持った。

日時：2015年6月8日（月）18：00～20：30

参加者：4期生6名、3期生3名

内容：・アイスブレイク（紙芝居で自己紹介）
・ボランティアを一言でたとえると（ワーク①）
・ボランティア Before & After（ワーク②）

③『ボランティアコーディネーター実践』

ボランティアの魅力を広めていくうえで、ボランティアに関心がない人、なかなか一歩が踏み出せない人たちの考えや思い、事情を理解しておくことは大切、ということで、ボランティア肯定派と否定派に分かれディベートを行ったほか、ボランティアの一歩を応援するための相談ロールプレイを行った。

日時：2015年6月15日（月）18：00～20：30

参加者：4期生7名、3期生4名、2期生1名

内容：・アイスブレイク（この3人が組んだら？）
・LOVE ボランティア VS アンチボランティアディベート合戦！（ワーク①）
・コーディネーター実践～ロールプレイ～（ワーク②）

④『学内・外のボランティア活動を知る』

～ボランティア活動助成金審査会&ドネーションパーティ運営体験～

ボランティア活動助成金公開審査会の運営サポートをしながら、学内でボランティア活動に取り組む11団体の発表を聴き、どのような活動があるのかを学ぶと共に、後半の交流会では来場いただいた地域の方々と交流シートを活用しながらヒアリングを兼ねた語らいの時を持った。

日時：2015年6月27日（土）10：00～17：30

参加者：4期生6名

内容：・ボランティア活動助成金審査会&ドネーションパーティ運営体験
・学生ボランティア団体や地域活動団体へのヒアリング

⑤『学生サポートメンバーとしてできること、やりたいこと』

これまで学んできたことを踏まえ、「ボラセン・サポメンに期待されていること」「サポメンとしてボランティアを広める上で課題だと思うこと」「サポメンとしてできること・やりたいこと」をテーマに、3つのワークに挑戦した。1ワークに一人ずつ進行役の学生を立て、全員で協力しながらアイデアを出し合った。

日時：2015年6月29日（月）18：00～20：30

参加者：4期生7名、3期生2名

内容：・講座内容の振り返り
・3つのニーズ（社会が求めること、自分のできること、自分のやりたいこと）
・「ボラセン・サポメンに期待されていること」（ワーク①）
・「サポメンとしてボランティアを広める上で課題だと思うこと」（ワーク②）
・「サポメンとしてやりたいこと、できること」（ワーク③）



◎特別編 - 『みんなの想いを引き出す力&企画を立てる力をつける』

特別編は、サポメン養成講座受講者の他、学友会の学生や他大学の学生も交えて開催した。

学生サポートメンバーや、各種部活動・委員会などでリーダーを務める学生にとって必要なスキルを学びあった。

日 時：2015年7月18日（土）10:00～16:00

参加者：21名

講 師：市民社会パートナーズ 代表 庄嶋孝広氏

内 容：・多くの人の声を聴き、まとめていく力

・みんなの想いを一つにして企画をつくり、実現していく力

・広報力、発信力

・平等に会議を進行する力



ii)成果と課題

- ・リーダー層の育成ができた。また、第1回目の講座がきっかけとなり、受講生2名がネットワーク活動に参加するようになった。冬には本学でネットワークの集まりも企画された。
- ・これまで講座を受講した学生から自分たちの役割について都度疑問を持たれることも多かったため、今回は、サポメンの大切な役割であるコーディネーションスキルに特化した会を設けるなど、講座の再構成を図った。しかし、情報を発信する、共有するといった意識がそこまで育たず、サポメンひとりひとり興味深い活動をしているが、それが広がっていかないという課題が残った。

※「学生サポートメンバー養成講座実施レポート」は資料編 89 ページに掲載

(3) 視野を広げるボランティア教養講座の実施

センターが発足して3年が経ち、ボランティア活動の輪は広がりつつあることを実感しているが、ここであらためて、社会の課題と向き合うための教養講座を立ち上げ、学生たちとともに学びの機会を持った。

i) 「命をいただくということ～食肉市場勉強会と見学会」

毎日のように食べる「お肉」には、動物たちの生命と、それらを食卓まで届けてくれる人の存在が不可欠である。しかし、日々精肉された商品に囲まれて生活をしている私たちは、その存在を忘れてしまいがちである。また、食肉に関わる仕事は、長く被差別部落に住む理不尽な差別を受けている人たちが担ってきており、卑しい仕事として位置づけられてきた。ボランティア活動の原点は、生命の尊さを知り、人権を尊重することにある。食肉市場の見学を通じて、「命」と「人権」について学び考える時間を持った。

①勉強会

日程：2015年8月21日（金）14：00～16：30

場所：東京都中央卸売市場食肉市場内センタービル（東京都港区）

参加者：学生4名、職員2名

内 容：・市場の歴史について
 ・市場内の説明
 ・働く人の差別問題に関すること
 ・次回の見学内容とルートの確認

講 師：市場職員

②見学会と意見交換

日程：2015年8月27日（木）8：00～15：00

場所：東京都中央卸売市場食肉市場内、センタービル

参加者：学生4名、職員2名

内 容：・市場見学オリエンテーション
 ・市場見学（小動物棟：豚、大動物棟：牛）
 ・お肉の情報館見学
 ・ビデオ鑑賞
 ・市場職員との意見交換

講 師：市場職員